

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601902		
法人名	株式会社 恵優		
事業所名	グループホーム 陽だまり	(ユニット名	1F)
所在地	福岡県久留米市御井町2491-1		
自己評価作成日	平成26年11月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム陽だまりは高良山を背景にした緑豊かな閑静な住宅街にあり、落ち着いた癒しのある生活が出来るように家庭のような温かいサービスで誠心誠意サポートさせて頂きます。看護職員の在籍が多いため利用者や家族にとって安心感があります。作業療法士がおり、高齢になるにつれまた運動不足等により起こる筋力低下の防止や骨折後等に必要なりハビリ、認知症の進行防止のための活動などもできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陽だまりは、高良山の緑を背景に自然が豊かな場所に立地している。敷地も広く代表者の自宅も敷地内にある。また、菜園もあり琵琶・キウイの果物、ゴーヤ・ピーマン・トマトなどの野菜もあり収穫は利用者の楽しみの一つになっている。代表者はじめ看護師資格を有した職員が多く、往診医との連携は当然のこと緊急時の体制も充実している。また5名の男性職員が緑の下の力持的な存在となっている。利用者一人ひとりにあわせ洗濯を干したり、たたんだり、居室の掃除などを自立支援として行っており、理念の一つにある「生活リハビリ」「機能訓練」につなぎ機能が低下しないように取り組んでいる。代表者は、働きやすい職場環境を整えることがサービスの質の向上に結びつくと考えから、常に気に留めており、更なる質の向上に向けて職員と一丸となって取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に作り上げた「豊かで明るい安全・安楽な生活、利用者の可能な範囲での自立支援、地域との交流」を理念として掲げ、皆が集まるリビングに掲示し、ミーティング等で確認し日々のケアの中で実践している。	理念は職員間で話し合って作成したものであり、リビングに掲げている。職員は日々の業務の中で常に目に触れ意識付けられており、日頃の申し送り時など確認を重ねながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し季節ごとの公民館行事に参加し、職員が清掃活動や不燃物回収に出ている。実習生の受け入れや保育園児やボランティアの訪問等で地域の人々との交流を楽しんでいる。	自治会に加入しており地域との交流を図っている。具体的には、地域の方と子供たちが作ったクリスマスケーキや餅つきのお餅を持って来ていただいたりしたことがあった。今後も交流を深めていく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア訪問や火災避難訓練、地域密着型運営推進会議等に地域の方々に参加して頂き、利用者や触れ合い互いの顔や名前を覚えて頂いたり地域の方から出てきた疑問に対して説明をするなどしながら認知症の人への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を実施し、利用者、職員の状況、行事や研修報告、事故報告や意見交換を自治会長、老人会、民生委員、利用者、利用者家族、市職員、包括支援センター職員を交えて行っている。	利用者・利用者家族・自治会長・老人会代表・民生委員・市職員・地域包括職員が参加し2ヶ月に1回開催している。運営報告を中心に話し合っており、避難訓練時に毛布を使用して利用者を避難するのが大変とのことからおんぶで避難できるグッズを家族会から寄贈されたこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度や運営上の疑問点、相談事等は市役所介護保険課に随時行い、ケアサービスの取り組み等は運営推進会議を通じて報告し、アドバイス等を頂きながら業務運営に協力してもらっている。	日頃から相談ごとやサービスに関すること、事業所の実情を伝えることでアドバイスを適宜得ながら協力関係を築いており、事業所の運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関と2階の入り口にセンサーを設置して利用者の安全面に配慮している。夜間においては、数名の方にセンサーマットを使用している。	玄関の施錠は夜間以外はしないようにしている。外部研修や内部研修を通じて身体拘束をしないケアの実践に努めている。家族の要望によりベッド柵を使用して欲しいとの要望があり、センサーマットの使用で、拘束をしないケアの方法を職員間で話し合い対応するよう努めた事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加など虐待防止について学ぶ機会を持ち、各職員が理解を深めるよう取り組んでいる。また、入浴時などには身体の観察にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度等の研修等に参加し、制度の理解に努めている。また、運営推進会議で地域の方やご家族に成年後見制度のパンフレットを配ったり説明したりしている。	外部研修に参加し、内部での伝達研修を行い制度の理解に努めている。必要な方に支援できるよう会議時など話し合いを行っており、必要時には支援できる体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、契約時あるいは解約時等は十分な説明を行い納得してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や毎月の支払いに来られた時に話を伺ったり、家族会の中で意見交換を行ってそれらを運営に活かせるようにしている。また、受診時は必ず職員が付き添い健康面での相談にのっている。	家族が訪問時や家族会で集まる機会には意見や要望等を聞く機会を設けている。また利用者個別に担当の職員を配置し、いつでも意見や要望が言える雰囲気作りや関係を築くように努めている。出された意見や要望は運営に反映させるよう職員間で共有し対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の中で全職員の意見や提案を聞き運営に活かしている。管理者は昼食の時間を利用して職員からの意見を日々聞いている。	食事の介助が必要だった利用者に合わせて車いすテーブルを作ったところ、自力での食事が出来るようになった事例があり、アイデアや意見、要望を取り入れ運営に反映している。他にも職員の勤務シフトの調整や、夕日がまぶしいとのことから簾を設置した事例等もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自分の仕事に自信と向上心を持ち働けるような職場づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	65歳定年制を設けているが、働ける職員は継続雇用され研修へも参加してもらっている。また、外部からの定年後の方のパート採用も行っている。	職員の採用にあたり性格がやさしい人を重視し採用している。年齢や性別による選別はしていない。また、職員に対して配偶者の看病での介護休暇、試験前の休暇も認めており長く勤務が続けられるよう配慮がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日本認知症グループホーム協会や県や市の協議会主催の研修に参加し職員への伝達研修を行っている。	代表者、管理者は会議の際などに人権に関する話をしたり、研修に参加し伝達研修の形で職員に周知を図っている。並びに認知症の理解を深め利用者一人ひとりに合わせた対応の大切さを留意しなら啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に研修会に参加して意識の向上が出来るように努めている。就職後3ヶ月間ほど新人研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各勉強会や施設長会議、協議会理事会等に参加、また、他のホームの行事や会議に参加するなどして同業者との相互交流を通じてお互いのサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者の受け持ちの職員を決めて、初期には特に利用者の不安なこと、悩みや要望等に密に耳を傾けながら関係を築き、早く安心して生活できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階から何か困っていることがないかやサービスに対する要望などを尋ねるようにして、それらに対して出来る限り対応支援し、信頼関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活歴や環境、病歴や悩み、困っていること不自由していることなど家族の意向を十分受け止め対応できるよう努め、些細な出来事でもできるだけ家族に報告して信頼関係を構築できるよう関わりを密にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ一緒に過ごし喜怒哀楽を共にしながら利用者ができることは手伝っていただくなどやりがいや生きがいの点も重視し、受身だけの生活とならぬ様、また、心の安定を図りながら利用者への理解と関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を作り家族会の中でも職員も参加し、本人への支援の仕方等が議論される。また、個別に家族と話し合い、共に本人を支援していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や地域の方等の訪問を歓迎し、居室でゆっくりと交流の時間が過ごせるよう環境づくりに努めている。	本人が以前買い物をしていた店や場所に職員同行で行ったり、家族の協力を得てなじみの場所まで連れて行ってもらうなど、馴染みの関係が途切れないよう関係者間で協力を図りながら支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に集まり各個人がお喋りしながら出来ることを共同で作業出来る環境づくりを行ったりし、互いに関わりあい助け合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に今後のことなどについて家族からの相談に応じフォローしている。契約終了後も家族が近況をお話に訪問されたり気軽に立ち寄れるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の関わりの中で言葉掛けをたくさんして会話や表情、仕草などから本人の真意を読み取るよう努めている。困難な場合は以前の本人の好みや家族に相談したりしながら検討している。	日々接するケアの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取り、職員は連絡ノートや介護記録、申し送り時に情報を共有して日々のケアに活かしている。意思表示が少ない利用者には表情や行動から意向の把握に努め、家族の希望や意向を聞き取り、本人本位になるように検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や周囲からの情報収集により利用者の今まで生きてきた環境、生活歴やサービス利用の経過等を知り、また日々の生活の中でも馴染みの暮らしを捉えていく。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現在の心身状態や身体的に出来る力、理解できる力を生活の中で常に見守り把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化や問題点が生じたときは申し送り時や会議等で話し合いを行い、情報を職員全員で共有できるようにしている。介護計画はできる限り本人、家族の意見・意向を聞き、全職員の意見を反映させたものとなるよう努めている。	担当者は利用者、家族の意向を聞き取り、主治医には往診日に意見を求めている。ケアマネジャーは毎月、職員会議の中でモニタリングを行い、職員全員で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、本人の様子、気づきなどを記入、伝達して職員間で情報を共有して実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段は病院への送り迎えを職員で行い、院内の付き添いは家族が行っていた家族の都合で職員が全て付き添いを行ったり、食事が出来なくなった方に流動食を手配したりその時々に応じた柔軟な支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員、老人クラブ、子供会、消防団、警察などとの交流や協力も得て、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望や同意により以前からのかかりつけ医を受診したり、連携医に隔週1回の往診をしてもらっている。歯科、眼科、皮膚科についても必要に応じ往診してもらっている。連携医との関係を蜜にとるよう努力している。	定期的に主治医の往診と歯科医、歯科衛生士、皮膚科の往診が行われている。他科受診時は家族と一緒に職員が受診に同行し、送迎を行っている。家族が来れない時は、看護師(職員)が電話で受診結果を報告し情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で身体の異常や状態の変化に気付いたら看護職・管理者等に報告し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前のカンファランスに参加したり、入院時には情報提供を行っている。また、退院時にも情報やアドバイス等をいただきその後のケアに活かしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで数名の看取りを行っている。ターミナルケアを希望された場合は書面にて同意を得ている。十分な説明をし、方針を共有し支援していく。また、利用期間が長くなると家族等の希望が変わることもあるので身体状況の変化時などに改めて尋ねるようにしている。	開設時より数名の看取りを行っている。ほぼ毎日看護師が出動しており、夜間帯の緊急時には看護師である施設長が敷地内に住んでいることもあり早急の対応ができる。また、主治医との連携も図られいつでも連絡できる体制である。家族、主治医、職員で連携し、看取りのケアについてその都度、状態に応じて話し合い支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に慌てず適切な処置・連絡ができるようマニュアルを作成したり救命救急の研修に参加したり、日頃から職員教育を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定と夜間想定での避難訓練を年に二回消防署・消防団の指導のもとで行い、地域住民や家族も参加して実施している。	年2回消防署指導のもと避難訓練を行っている。7月は夜間想定で消防団と地域の方たちの参加を得て早期に行った。11月は昼間想定で利用者全員を避難させ、独歩できない利用者は、二人の職員で背負う「かけモック」を使用しての訓練を行った。火災報知器、スプリンクラーが設置され、非常食品や備品もある。水害時や地震災害についての周知まで至っていない。	土砂災害や地震時のマニュアルは作成しているため、家具の固定等の安全対策をふまえ、今一度、災害対策について検討する機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は訪室する際の声掛けやさりげないトイレの誘導を心がけている。時には親しみをこめて方言を交えて対応している。	個人のケアファイルや書類・写真などの個人情報に関わるものは家族の了解を得て使用し、事務所で管理保管している。入浴やトイレなどの声掛けはプライバシーに配慮し、利用者一人ひとり個別に介助している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞いたり、希望がある人は出来るだけ希望に沿うように対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの日々の活動やペースがあり、職員はそれに基づいてその日の体調や本人の希望を考慮しながら支援を行うよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪形などが変わっていたら「綺麗ね」「よく似合っているね」などの言葉掛けを行い、身だしなみやおしゃれへの関心を継続するよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はできない事が多くなってはきているが、食事の下膳やお盆拭きなど出来ることを職員と一緒にやっている。	カロリー計算した写真付きの献立で食材が届けられており、職員誰でもが料理できるようになっている。利用者が巻き寿司やパンを食べたいと言われたときは変更することもある。利用者は食事が終わった後の食器を運んだり、庭でできた梅を収穫して梅ジュースを作ったり、もやしの根切り等を希望や心身の状況に応じてやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量や水分摂取量が分かるように状態に応じて記録し、水分が足りない場合は途中で補給してもらったりしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きやうがいを行い口腔内の清潔に努めている。また、必要な方、希望がある方については口腔ケア往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン等を職員全員で把握して、必要な方にはタイミングをみながら声掛けや誘導をし本人ができるところは自分で行うようアプローチしている。	一人ひとりの排泄を時間ごとにチェック表に記入し、排泄パターンを把握して、リハビリパンツから布パンツに、または、パット使用にするなど自立支援に向けた取り組みを行っている。その成果でオムツ使用の方がトイレで排泄するようになり夜ぐっすり眠られるようになった事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録して水分摂取や繊維の多い食物を心がけたり体操を行ったりして便秘にならないように努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、火曜と金曜に入浴を行い、必要な方にはその他の日にも入浴を行っている。入浴を好まれない方には無理強ひせずタイミングを図り言葉掛けや対応を工夫している。	週に2回以上の入浴ができる環境である。入浴を嫌がる利用者には声掛けを工夫したり、曜日を変えて入浴を行っている。シャンプーや石鹸は事業所で用意しているが、利用者により前から使っているものを使用するなど個人の好みに応じ、入浴を楽しんでもらえるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や習慣に応じて居室や畳の間で安心して眠れるよう支援したり、ソファで休息してもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用などをファイルにまとめて職員がいつでも見られるようにしている。また、薬が変わった時など内服による症状・状態の変化を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや清掃を行うなど希望により役割を持ってもらっている。また、散歩に行き花を摘んだり、紙細工作りが好きな方に紙細工を楽しめる環境を整えたり綺麗な包装紙を差し上げたりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に声を掛け、希望にあわせて合わせて職員と散歩に行ったり家族の協力も得て外出や外食したりしている。また、地域の協力も得て弁当持参で花見に出掛けたり敷地内の野菜や果物の収穫などを一緒に行っている。	天気の良い日は庭にある果実や野菜の収穫を楽しんだり、季節ごとの花見に出かけている。お寿司を食べたいと要望があれば家族や兄弟と行きつけの寿司屋に行けるようにしたり、洋服などの買物がしたいと要望があれば買物の付き添いを行っている。本人の希望にそった外出ができるように支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は小遣いを自分で持ち買物をしたりしていたが、現在は、金銭管理が出来る人がいないため職員で管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が職員に家族への電話を頼まれれば電話を取り次いだりしている。定期的に本人に電話連絡を下さる家族もいる。また、本人への手紙や贈り物が届いた場合等、本人が返事ができないため代わりに担当職員から近況等を記したお礼状を出したり電話連絡をして本人と話せるよう支援したりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファがあり、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。食堂や畳の間には雛人形や花など季節を感じられるようなものを飾り、廊下には利用者や職員が作った貼り絵などを掲げ、玄関内には観葉植物を配置している。窓からは外部の花や緑を眺めることが出来る。	居室から食堂兼リビングまでの廊下は月ごとの創作物が飾られ季節を感じられる工夫がなされている。廊下の天井にはどれくらい歩いたか距離が分かるようになっており、利用者の歩行訓練に活用されている。リビングや畳の間等で、利用者はソファでくつろいだりテレビを見たりと自由に居心地良く過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的の居間には畳の間や複数のソファを配置し、好きな場所で気の合った方と思い思いに過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や用具を持ってきて頂いたり、本人ができるだけ混乱なく居心地よく過ごせるように心がけている。	ベッドは事業所で用意されている。入居時に使い慣れた家具を本人や家族と話し合いながら自由に持って来て頂くようにしている。タンスやお位牌、鏡台など使い慣れた物を置き、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱がないようにトイレの文字を大きく表示したり、夜間でもすぐ分かるように明るくしている。また、各所に手すりを設置している。		